

## クラウドファンディングでの支援募集【第6弾】を開始しました

公益財団法人 松竹大谷図書館は、昨年実行した第5弾に引き続きまして、当館運営費及び所蔵資料のデジタル化費の募集を目的とした「【第6弾】歌舞伎や映画、銀幕が伝えた記憶を宝箱で守る。」プロジェクトを、9月5日(火)より、クラウドファンディング「Readyfor (レディーフォー)」にて開始いたしました。

本館は常に財政が厳しく、平成 24 年、専門図書館としては初めて、運営資金を募集するためのクラウドファンディングプロジェクトを「Readyfor」で実行しました。以来、昨年まで5回のプロジェクトを実行し、いずれも目標金額を達成し、これまでに累計で、約 1,500 万円のご支援をいただきました。そして、今年も「第6弾」として、支援募集のプロジェクトを、昨年と同様、クラウドファンディング「Readyfor」で実行します。



## プロジェクト名 【第6弾】歌舞伎や映画、銀幕が伝えた記憶を宝箱で守る。」

- 募集期間 平成 29 年 9 月 5 日(火)～10 月 25 日(水)【50 日間】
- 目標金額 250 万円(図書館の平成 29 年度運営費:160 万円  
／【映画スクラップ】を保護するアーカイバル容器(保存箱)の制作費:90 万円)
- 募集金額設定 一口 3,000 円/5,000 円/10,000 円/30,000 円/50,000 円



『麥秋』(1951 年、松竹大船、小津安二郎監督作品)のスクラップに貼り込まれた当時の広告記事

目標金額のうち、160万円は平成 29 年度の当館の運営費で、今回は、主に経年劣化が進む電動書架の基板交換費用に充てます。これに、当館が所蔵する、【映画スクラップ】のアーカイバル容器(保存箱)の制作費を合せて、合計 250 万円としました。

【映画スクラップ】とは、松竹の映画作品について公開当時の新聞や雑誌に掲載された紹介記事などが、作品ごとに松竹株式会社の映画宣伝部によって貼り込まれた資料です。紹介記事以外にも、撮影時のスナップ写真や宣伝材料が貼り込まれたものもあり、撮影当時の様子を伺うことが出来る、松竹大谷図書館にしかない貴重な資料です。しかし、特に昭和 20 年～41 年のスクラップブック約 1,800 冊は紙が弱っており、劣化が進行しています。

そこで、今年の第6弾プロジェクトでは、支援金で【映画スクラップ】専用のアーカイバル容器(保存箱)を作り、これ以上破損が進まないよう、できる限りよい状態で永く保存していきたいと考えています。

ご支援の金額に応じてリターン(お礼の品)を設定しています。当プロジェクト限定オリジナル文庫本カバーや、所蔵する歌舞伎・映画台本のうち 200 タイトルの中から支援者にお好きな作品を選んでいただき、その台本カバー(台本を保護するための手作りカバー)に支援者のお名前を載せる権利など、趣向を凝らしたリターンを設定しております。是非、プロジェクトページをご覧ください。周囲の方にもお広めください。また趣旨に賛同してご支援いただければ幸いです。



「歌舞伎台本」文庫本カバー[左]  
「映画台本」文庫本カバー[右]  
※大きい方は本物の台本文庫本カバーは見本

くわしくは、下記の URL または上部の館名入り QR コードからプロジェクトページをご覧ください。

<https://readyfor.jp/projects/ootanitoshokan6>

★公式 Facebook 始めました★ こちらでもクラウドファンディングの情報を発信しております!

<https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>

※松竹大谷図書館は公益財団法人ですが、このプロジェクトで集める支援金に関しては、購入型のクラウドファンディングを利用するため寄附者への税制の優遇措置は受けられません。

■ 松竹系 8月 演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『刺青奇偶』	○			
	『玉兎』				
	『団子売』				
	『修禅寺物語』	○		○	○
	『東海道中膝栗毛 歌舞伎座捕物帖』	○			
	『野田版桜の森の満開の下』	○			
新橋演舞場	『にんじん』			○	○
松竹座（大阪）	『少年たち 南の島に雪は降る』	○		○	
中日劇場/フェスティバルホール	六本木歌舞伎第二弾『座頭市』	○		○	
地方巡業	『妖麗牡丹燈籠』			○	

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 他社演劇公演資料 ■

IHI ステージアROUND東京	8月	劇団☆新感線『髑髏城の七人 鳥』プログラム
あうるすぽっと	8月	KUNIO13『夏の夜の夢』プログラム
神奈川芸術劇場	8月	劇団四季ミュージカル『オペラ座の怪人』プログラム
吉祥寺シアター	8月	劇団め組『岡田以蔵』プログラム
紀伊國屋ホール	8月	東京芸術座『父を騙す 72年目の遺言』プログラム
国立劇場小劇場	7月	『大人のための雅楽入門』 『大人のための声明入門』プログラム 『親子で楽しむ日本舞踊』プログラム 『親子で楽しむ邦楽』プログラム
	8月	『第二回双蝶会』プログラム 『小学生のための歌舞伎体験教室発表会』プログラム 『第三回研の會』プログラム
国立文楽劇場	8月	『第二十七回上方歌舞伎会』プログラム、台本
こまばアゴラ劇場	8月	FUKAI PRODUCE羽衣『瞬間光年』プログラム
シアターオーブ	7月	ブロードウェイ・ミュージカル『ウエスト・サイド・ストーリー』プログラム
シアターコクーン	8月	『プレイヤー』プログラム
シアタークリエ	7月	『RENT』プログラム
シアターサンモール	8月	HYBRIDO PROJECT『RANPO Chronicle冥府の箱』プログラム
渋谷BarBASE	8月	はらぺこペンギン『Rental!』『よりどころ』プログラム
下北沢駅前劇場	7月	劇団ジャブジャブサーキット『月読み右近の副業』プログラム
下北沢Geki地下Liberty	8月	劇団鹿殺し『我飯』プログラム
自由劇場（四季）	7月	ファミリーミュージカル『嵐の中の子どもたち』プログラム
	8月	劇団四季ミュージカル『ガンバの大冒険』プログラム
新宿ゴールデン街劇場	8月	metro『二輪草「孤島の鬼」より』プログラム
新国立劇場小劇場	7月	『怒りをこめてふり返れ』プログラム
新国立劇場中劇場	7月	『君が人生の時』プログラム
Space早稲田	7月	日本の演劇人を育てるプロジェクト『SCRAP』プログラム、台本
SPACE雑遊	8月	温泉ドラゴン『幸福な動物』プログラム
青年座劇場	7月	劇団青年座『旗を高く掲げよ』プログラム、台本
DDD青山クロスシアター	7月	ゴーチ・ブラザーズプロデュース『カントリー』プログラム
帝国劇場	7月	『ミュージカル ビューティフル』プログラム
東京芸術劇場シアターイースト	8月	大人計画『業音』プログラム
東京芸術劇場シアターウエスト	8月	芸劇+トーク『朗読「東京」』プログラム
東京芸術劇場プレイハウス	8月	映画演劇文化協会『ミュージカル・コメディ キス・ミー・ケイト』プログラム
東京国際フォーラムホールC	7月	『音楽喜劇のど自慢 上を向いて歩こう』プログラム

(新着資料案内 他社演劇公演資料 続き)

中野ザ・ポケット	8月	TOKISHIRAZ 『かけおち』プログラム
日本橋劇場	8月	『挑む』プログラム
博多座	8月	『ミュージカル レ・ミゼラブル』プログラム、ポスター
本多劇場	8月	M&O p l a y s 『鎌塚氏、腹におさめる』プログラム
三鷹市芸術文化センター星のホール	7月	土田英世セレクション 『きゅうりの花』プログラム

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『HiGH&LOW THE MOVIE 2 END OF SKY』	○	○	○		
『関西ジャニーズJr. のお笑いスター誕生!』	○	○	○		○

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 映画プログラム ■

- |  |                               |              |
|--|-------------------------------|--------------|
| 『フェリシーと夢のトゥシューズ』                         | 『花戦さ』                         | 『ポプラの秋』      |
| 『ミラクル・ニール!』                              | 『ずっと前から好きでした。告白実行委員会』         |              |
| 『好きになるその瞬間を。告白実行委員会』                     | 『劇場版K MISSING KINGS』          |              |
| 『爆走兄弟レッツ&ゴー!! WGP (ワールドグランプリ) 暴走ミニ四駆大追跡』 |                               |              |
| 『ワンダーウーマン』                               | 『DARK STAR H・R・ギーガーの世界』       |              |
| 『君の隣をたべたい』                               | 『関ヶ原』                         | 『エル E L L E』 |
| 『トランスフォーマー 最後の騎士王』                       | 『トランスフォーマー アルティメット・トイガイド2017』 |              |
| 『ジョジョの奇妙な冒険 ダイヤモンドは砕けない 第一章』             | 『少女ファニーと運命の旅』                 |              |
| 『きみの声をとどけたい』                             | 『スパイダーマン:ホームカミング』             |              |
| 『ザ・マミー 呪われた砂漠の王女』                        | 『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』           |              |
| 『打ち上げ花火、下から見るか?横から見るか?』                  |                               |              |

■ 演劇雑誌 ■

- |   |                         |
|---|-------------------------|
| 『AAC』2017年Vol.93  | 『テアトロ』2017年9月号          |
| 『Confetti』2017年SEPTEMBER  | 『ラ・アルプ』2017年9月号         |
| 『Confettiかわら本』2017年8月号  | 『演劇界』2017年10月号          |
| 『DRAMAかながわ』2017年(別冊6号)  | 『国立演芸場公演ガイド』平成29年9月号    |
| 『JATE』No.81   | 『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』11号 |
| 『TICKETS GO!GO!』Vol.70  | 『大向う』平成29年8月号           |
| 『あぜくら』2017年8月号  | 『伝統文化新聞』2017年(135号)     |
| 『シアターガイド』2017年10月号  | 『日本芸術文化振興会ニュース』平成29年9月号 |
| 『ジョイン』2017 Jul. No.89, 上演記録に関する調査研究報告書正会員団体上演記録(2016年1月-12月), 上演記録に関する調査報告書正会員団体上演記録〔学校公演〕2016年 | 『日本照明家協会誌』2017年8月号      |
|   | 『日本舞踊』69巻9月号            |
|   | 『邦楽の友』平成29年9月号          |

■ 映画雑誌 ■

- |  |                        |
|--|------------------------|
| 『FLIX』2017年10月号                            | 『シネ・フロント』2017年7月号      |
| 『SCREEN』2017年10月号                          | 『ドラマ』2017年9月号          |
| 『TVガイド』2017年8/11号,8/18号,8/25号,9/1号,9/8号    | 『ピクトアップ』2017年10月号      |
| 『おとなのデジタルTVナビ』2017年9月号,10月号                | 『映画テレビ技術』2017年9月号      |
| 『キネマ旬報』2017年キネマ旬報NEXT Vol.14,9月上旬号,9月下旬号   | 『映画芸術』2017年夏号          |
| 『ザ・テレビジョン』2017年8/11号,8/18号,8/25号,9/1号,9/8号 | 『映画撮影』2017 Aug. No.214 |
| 『シナリオ』2017年10月号                            | 『映画時報』2017年8月号         |
| 『シナリオ教室』2017年9月号                           | 『映画秘宝』2017年10月号        |
|  | 『衛星劇場プログラムガイド』2017年9月号 |
|  | 『日経エンタテインメント!』2017年9月号 |

■ 書 籍 ■

『ANNUAL REPORT 2012』		Shochiku
『ANNUAL REPORT 2010』		Shochiku
『織田作之助の大阪 生誕100年記念』	オダサク倶楽部 (編)	平凡社
『歌舞伎に携わる演奏家名鑑 平成28年版』	伝統歌舞伎保存会 (編)	伝統歌舞伎保存会
『凶悪の世界映画事件史』		洋泉社
『映画監督への道』	泊貴洋 (著)	誠文堂新光社
『映画監督のつくり方』	キネマ旬報社 (編)	映像産業振興機構(VIPO)
『映画監督の未映像化プロジェクト』	遠山純生 (編)	エスカイア マガジン ジャパン
『黒澤明が選んだ100本の映画』	黒澤和子 (編)	文藝春秋
『俳優 高倉健 映画大全 KEN TAKAKURA 忘れない、永遠の二〇五作』	ファミマ・ドット・コム (発売)	
『リドリー・スコット』	風間賢二 (責任編集)	キネマ旬報社
『永瀬正敏』	永瀬正敏 (著)、キネマ旬報社 (編)	キネマ旬報社
『愛蔵版写真集薬師丸ひろ子フォトメモワールPart 3 青春17歳現在完了』	小島由起夫 (撮影)	富士見書房
『愛蔵版写真集薬師丸ひろ子フォトメモワールPart 4 みつめいたり』	小島由起夫 (撮影)	富士見書房
『Tom Cruise トム・クルーズ』		ぴあ
『山田洋次監督・寅さん関連記事』		[不明]
『ドキュメント・男はつらいよ』		[報知新聞社]
『Real Shodo Girls 熱血!! 高校書道部写真集』		アートコミュニケーション
『「ハル」イラスト集』		プロダクション・アイジー(発売)

資料をご寄贈くださった方々 (敬称略・順不同/2017年6月~7月)

※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、松竹ブロードキャスティング株式会社、キネマ旬報社、フィルムセンター、劇団四季、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、国立劇場、株式会社日本舞踊社、愛知芸術文化センター、株式会社パルコ、鎌倉市川喜多映画記念館、岩波書店、文学座、劇団民藝、玉造小劇場、デアゴスティーニ・ジャパン、演劇出版社、梅村三郎、関西・歌舞伎を愛する会、歌舞伎寿会、明治座、ロングランプランニング株式会社、一般社団法人日本民間放送連盟、M&O p l a y s、河東節十寸見會、国文学研究資料館、四季株式会社、流山児★事務所、独立行政法人日本芸術文化振興会国立文楽劇場、丹野達弥、伝統文化新聞、公益社団法人日本照明家協会、株式会社カモミール社テアトロ編集部、丸善出版株式会社、岩波ホール、株式会社ヴィレッジ、若林さだ吉、十代目岩井半四郎家族、(株)近代映画社、博多座、劇団銅鑼、荒勝陽子、銀座百店会、一般社団法人日本演出者協会、株式会社アサツ・ディー・ケイ、シアタークリエ、東京芸術劇場 (公益財団法人東京都歴史文化財団)、帝国劇場、邦楽の友社、新歌舞伎座、おもだか会、東宝株式会社、シナリオ・センター、銀座 博品館劇場、株式会社ホリプロ、日本映画テレビ技術協会、前進座、無声映画鑑賞会、劇団青年座、こまつ座、関西常磐津協会、人形劇団プーク、東京都江戸東京博物館、日本映画テレビプロデューサー協会、劇団俳優座、新劇交流プロジェクト制作委員会、(有)アゴラ企画、名取事務所、(株)CLIE、日本近代文学館、映画論叢、松岡亮、東京音楽大学付属図書館、大佛次郎記念館、一般社団法人義太夫協会、一般社団法人長唄協会

どうもありがとうございました

## 第 66 回展示 「大政奉還 150 年」 展

展示期間：2017 年 8 月 30 日～10 月 25 日／於 閲覧室

本年は「大政奉還」から 150 年の節目となる年です。慶応 3[1867]年の 10 月 14 日、京都二条城にて第 15 代将軍徳川慶喜が政権返上を明治天皇に奏上、翌 15 日に天皇が奏上を勅許しました。この歴史的な出来事は、演劇・映画などに題材として取り上げられ、様々な俳優が坂本龍馬、明治天皇、徳川慶喜などの実在の人物を演じています。今回は当館が所蔵する「大政奉還」に関する作品を展示いたします。

### 【展示資料一覧】

歌舞伎『坂本龍馬の妻』スチール写真／昭和 15[1940]年 9 月新橋演舞場/作: 貴司山治/演出: 金子洋文/主な出演: 2 代目尾上松緑(坂本龍馬), 6 代目中村福助=6 代目中村歌右衛門(龍馬の妻龍子)

映画『維新の曲』スチール写真／昭和 17[1942]年 大映/監督: 牛原虚彦/脚本: 八尋不二/主な出演: 阪東妻三郎(坂本龍馬), 市川右太衛門(桂小五郎), 嵐寛寿郎(徳川慶喜)

映画『大東京誕生 大江戸の鐘』スチール写真／昭和 33[1958]年 松竹/監督: 大曾根辰保/脚本: 猪俣勝人+岸生朗+柴英三郎/主な出演: 高田浩吉(勝海舟), 芥川比呂志(将軍慶喜), 6 代目市川染五郎=9 代目松本幸四郎(明治天皇)

テレビドラマ『明治天皇』台本／昭和 41[1966]年 1 月 7 日-6 月 24 日 読売テレビ放送+日本電波映画/監督+脚色+原作: 渡辺邦男/主な出演: 17 代目市村羽左衛門(明治天皇), 石倉英彦(明治天皇・若帝時代), 高田浩吉(徳川慶喜)

演劇『明治大帝』台本, スチール写真(舞台面)／昭和 37[1962]年 9 月 明治座/演出: 程島武夫/脚色: 霜川遠志/原作: 立野信之/主な出演: 8 代目松本幸四郎=初代松本白鸚(中川宮+明治天皇), 6 代目市川染五郎=9 代目松本幸四郎(新帝)

演劇『酔って候』スチール写真(舞台面)／昭和 40[1965]年 10 月 明治座/演出+脚本: 榎本滋民/原作: 司馬遼太郎/主な出演: 3 代目實川延若(山内容堂), 7 代目坂東簀助=9 代目坂東三津五郎(後藤象二郎), 3 代目市川猿之助=2 代目市川猿翁(岩倉具視)

演劇『竜馬がゆく』スチール写真(舞台面)／昭和 43[1968]年 6 月 歌舞伎座/演出+脚本: 伊藤大輔/原作: 司馬遼太郎/主な出演: 初代中村錦之助=萬屋錦之介(坂本龍馬), 中村賀津雄=中村嘉葎雄(中岡慎太郎)

『酔って候』と『竜馬がゆく』のスチール写真(舞台面)は、それぞれ 2 枚ずつ「大政奉還」前後の場面を取り上げ、史実の年代順に並べて展示しています！

演劇『最後の将軍 徳川慶喜』台本, スチール写真(舞台面)／昭和 44[1969]年 6 月 歌舞伎座/作+演出: 伊藤大輔/原作: 司馬遼太郎/主な出演: 初代中村錦之助=萬屋錦之介(徳川慶喜), 中村賀津雄=中村嘉葎雄(勝安房守=勝海舟)

映画『幕末』台本／昭和 45[1970]年 中村プロダクション/監督+脚本: 伊藤大輔/主な出演: 初代中村錦之助=萬屋錦之介(坂本龍馬), 三船敏郎(後藤象二郎)

演劇『彦馬がゆく』プログラム／平成 14[2002]年 1 月 7 日-2 月 3 日 PARCO 劇場/作+演出: 三谷幸喜/主な出演: 小日向文世(神田彦馬), 松重豊(坂本龍馬), 梶原善(桂小五郎)

歌舞伎『竜馬がゆく 立志篇』スチール写真／平成 19[2007]年 9 月 歌舞伎座/演出+脚本: 齋藤雅文/作: 司馬遼太郎/主な出演: 7 代目市川染五郎(坂本龍馬), 5 代目中村歌六(勝海舟)

歌舞伎『竜馬がゆく 風雲篇』スチール写真／平成 20[2008]年 9 月 歌舞伎座/演出+脚本: 齋藤雅文/作: 司馬遼太郎/主な出演: 7 代目市川染五郎(坂本龍馬), 2 代目市川亀治郎=4 代目市川猿之助(京医者娘檜崎りょう), 4 代目尾上松緑(中岡慎太郎)

歌舞伎『竜馬がゆく 最後の一日』スチール写真／平成 21[2009]年 9 月 歌舞伎座/演出+脚本: 齋藤雅文/作: 司馬遼太郎/主な出演: 7 代目市川染五郎(坂本龍馬), 4 代目尾上松緑(中岡慎太郎)

演劇『天璋院篤姫』プログラム／平成 22[2010]年 2 月 明治座/演出: 西川信廣/脚本: 長谷川康夫/原作: 宮尾登美子/主な出演: 内山理名(天璋院篤姫), 遠野あすか(皇女和宮), 国広富之(勝海舟)

映画『ええじゃないか』プログラム, スチール写真／昭和 56[1981]年 松竹+今村プロ/監督+脚本: 今村昌平/脚本: 宮本研/主な出演: 桃井かおり, 泉谷しげる

映画『憑神』プログラム／平成 19[2007]年 「憑神」製作委員会/監督+脚本: 降旗康男/脚本: 小久保利己+土屋保文/原作: 浅田次郎/主な出演: 妻夫木聡, 夏木マリ, 江口洋介(勝海舟)



左上から時計回りに『明治天皇』TV 台本、『大東京誕生 大江戸の鐘』と『ええじゃないか』の映画台本です。『明治天皇』TV 台本は「大政奉還」のシーンを開いて展示しています。映画台本 2 冊は展示しておりませんが、カウンターに請求いただければ閲覧できます

## 第12回映画の復元と保存に関するワークショップ(2日目 講義) 「特別企画 映画資料カンファレンス in 東京」に参加して

日時：平成29年8月26日 15:15～18:45

会場：電機通信大学 B 棟 202 教室

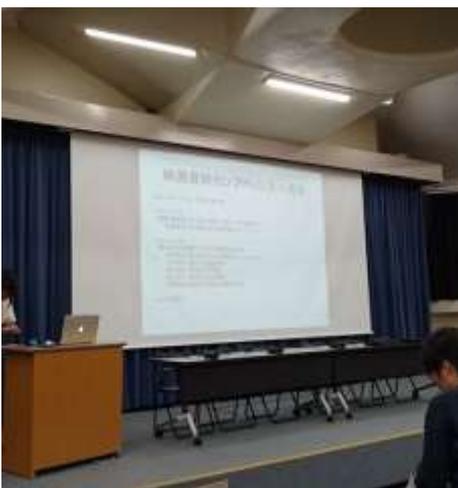
参加者：井川繭子

まだ残暑厳しい8月末の土曜日、調布市にある電気通信大学の大教室を会場として、「第12回映画の復元と保存に関するワークショップ」の講義が行われた。このワークショップは、NPO 法人映画保存協会が中心となって2006年より開催しているもので、東京で開かれるのは昨年到现在に続いて2年目となる。全3日間のワークショップの内、初日は各地の関係施設に分かれて見学と実習、2・3日目は講義で、参加者数は270名にも及ぶ。その中の2日目の午後に「映画資料カンファレンス in 東京」と題して、ノンフィルム資料（フィルム以外の映画資料）について報告する特別企画が設けられることになり、松竹大谷図書館も映画資料を所蔵する機関として登壇し報告を行ってきた。

「映画資料カンファレンス in 東京」というタイトルは、昨年12月に神戸映画資料館で開催されたイベント「ノンフィルム資料の保存と活用」を踏まえてのものである。神戸で開催した際に、各地から集った映画資料に携わる人々の間から、今後もこうした機会を設けて情報交換を行いたいとの希望が出ていたのだが、それがさっそくこのような形で実現することになったのは、とても嬉しいことである。

初めに「映画資料の収集・保存・公開～その現在地」と題して東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員の岡田秀則氏の講演があった。フィルムセンターのノンフィルム資料の責任者であり展覧会の企画も担当しておられる岡田氏は、今回のカンファレンス全体のコーディネーターも務められている。

(ちなみにキネマ旬報の2016年度映画本大賞1位を受賞したご著書『映画という物体 X>フィルム・アーカイブの眼で見た映画』(2016年立東舎)には、ノンフィルム資料について示唆に富んだ多くの記述がある。) 講演では、フィルムとは違ったノンフィルム資料の多種多様さとそれが持つ価値、収集保存の実情などについて述べられた。また近年は日本の各地に映画資料館が増えてきていることから、今後はさらに資料館側からも広報活動や他機関との連携などを図って、広く社会的に認知されるようにしていくべきだろうとのお話であった。



続いて関東地方各機関の活動と所蔵資料の紹介として、5つの機関から実際に映画資料に関わっている担当者が登壇してパネルディスカッションが行われた。出席者は、当館の他に、フィルムセンターの岡田氏、世田谷文学館学芸員の庭山貴裕氏、調布市立図書館の吉江夏子氏、そして司会進行役の鎌倉市川喜多映画記念館の馬場祐輔氏である。

まずはフィルムセンターがノンフィルム資料を所蔵する全国の諸機関を調査し発行した『全国映画資料館録2015』のデータを提示しつつ、それぞれの担当者が各館の紹介を行った。当館の場合は、閲覧室やミニ展示、『男はつらいよ』台本や『麥秋』の映画スクラップの写真などを提示しながら、所蔵する映画資料の特色や手製の台本カバーによる台本の保存方法などについて説明した。フィルムセンターの岡田氏のご報告は、その所蔵資料の内容や収蔵庫の規模、展示まで多岐にわたり、さすが国内唯一の国立の映画機関として、私たちのような他の資料館にとっての規範となるものだと感じた。一方で文学館でありながら実は映画資料を

数多く所蔵し充実した展覧会を開催している世田谷文学館の庭山氏からは、昨年企画した「小林正樹展」について、また川喜多映画記念館の馬場氏からは、川喜多夫妻が日本に紹介された豊富な外国映画資料と、鎌倉という土地柄を生かした映画資料館として、多彩な企画展や上映を行っている活動が報告された。そして調布市立図書館からは、1995年10月に市立中央図書館内に開設された映画資料室についてのご報告があった。戦前から撮影所や映画関連企業が多いことから、「映画のまち調布」の地域資料の一環として日本映画、特に日活・角川大映撮影所に関する資料を中心に、映画資料の収集に力を入れているようだ。

続いての意見交換では、映画資料の目録化や取り扱い方法については未だ基準となるものが定まっていないため、予算や人員の限られた中でそれぞれが試行錯誤しながら続けてきたのが現状なのだが、これからは共通した種類の映画資料を所蔵する機関が、互いの方法を学び情報交換を行うことで、より良い方法を模索していただけるのではないかと思います。



10分程度の休憩をはさんだ後は、立教大学現代心理学部教授の中村秀之先生による講演「映画資料へのアクセシビリティ」があった。ハリウッドの映画資料をアメリカの大学で調査したときのお話は臨場感溢れるもので、製作の現場資料がきっちり保存され公開もされている事例など、さすが文書や記録の保存公開が進んでいる国だと感心した。

その後「専門資料館の事業紹介」として、特定の映画人を顕彰する資料館を紹介するコーナーがあった。脚本家水木洋子邸を保存し公開している市川市文学ミュージアムの富居隆之氏、常設展として小津安二郎監督紹介展示がある江東区古石場文化センターの松村浩士氏、市川崑監督のご子息で自宅の一角に記念館をオープンし資料を公開している市川崑記念館の市川建美氏がお話し下さった。

最後は今までの発表者9人が再び登壇して、トークセッションと質疑応答となった。一口に映画資料館といっても、公立か企業かという運営基盤も違い、映画専門の資料館ではなく図書館や文学館といった本来の事業の形が異なる機関もある。また映画資料を地域資料として保存する自治体や、特定の映画人にまつわる資料を収集する資料館など、様々な特色を持っている。そんな中で当館の特色は、映画興行に長年携わってきた松竹株式会社を母体としているため、映画が公開されるたびに松竹が手掛けた作品の台本や宣伝材料など生の資料が入ってくる点、そして図書館なので原則としてすべての所蔵資料が閲覧可能である点だろう。先程講演された中村先生によれば、映画の宣伝についての資料が多く残っているのは日本の特徴といえるかもしれないとのことで、当館の宣伝材料の多さを日々実感している者としてはたいへん納得できるご指摘だった。他に資料収集の方法（寄贈だけでなく古書店などから購入もしているか等）や、目録化（カタログギング）における人名や用語の表記のぶれなどの問題点についても意見が出たところで、今回のカンファレンスはやや時間を超過しつつも無事終了となった。

今回の報告に際しては、モデレーターを務められた川喜多映画記念館の馬場氏より、事前準備として詳細な質問事項をお送りいただき、それに沿って自館の資料や活動について予習をして臨んだのだが、これが改めて松竹大谷図書館の映画資料について再認識する作業となり、自分にとって大変勉強になった。また聴講されている参加者の方々も、長時間に及ぶカンファレンスにもかかわらず、大変熱心に耳を傾けてくださって、その熱気がこちらにも伝わってきた。今回参加できたことを、主催者をはじめとして関係者の皆様に感謝申し上げたい。そして今後もこうした機会を重ね、映画資料機関がお互いに連携してネットワークを築けるようになれば、もっとノンフィルム資料の価値を広く深く認識してもらえるようになるのではないかと思います。

## 》》 お知らせ

# インターネット上から当館の所蔵資料の検索が可能になりました！

9月1日よりインターネット上から松竹大谷図書館の所蔵資料の検索が可能になりました。下記検索サイトをご利用下さい。

<https://opac315.libraryexpert.net/lib-shochiku-otani/>

また、松竹大谷図書館HPトップにあるリンク「資料検索はこちら」をクリックすると検索画面になりますのでこちらからもご利用下さい。

<http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>



なお、インターネットで公開しているのは図書管理システムでの登録を完了している資料(図書、雑誌、台本、プログラムなど)の「書誌情報」のみです。詳細な所蔵状況、請求記号、雑誌の目次などはインターネット上では公開しておりませんので詳しい検索につきましては、従来どおりご来館の上、当館の館内端末をご利用いただくか、お手数ですが、開館時間内に当館までお電話でお問い合わせ下さい。お問い合わせ先(Tel:03-5550-1694)

また、平成15年(2003)年までのカード目録時代に登録した資料は、まだシステムへの遡及入力がかたて完了していないため検索する事ができません。松竹大谷図書館内のカード目録をご利用下さい。

## ■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

**公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。**

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2017（平成29）年8月にご支援いただきました

### 法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます

### ●「お知らせ」東京中央郵便局で組上燈籠復刻版「車引」が立体展示されています

第5弾プロジェクトのご支援により作成した「組上燈籠絵」復刻版【芝居絵・ペーパークラフト】のうち、「菅原伝授手習鑑 車引」が、東京駅すぐそば「KITTE（キッテ）」1階の東京中央郵便局特設展示場にて9月末まで立体展示されております。これは、歌舞伎のイメージを使用した「歌舞伎年賀状」の、9月1日の販売開始に合わせて設置された「菅原伝授手習鑑 車引」の場を表した特設展示場です。等身大の巨大な松丸、梅丸、桜丸、時平公が迫力満点で、あの吉田神社の鳥居の下に立つこともできます！詳しくは当館の第5弾プロジェクトの2017年9月7日の新着情報でお知らせしております。  
<https://readfor.jp/projects/ootanitoshokan5/announcements/62712>

### ■ 編集後記 ■

▼巻頭でお知らせしていますように、第6弾のクラウドファンディングが始まりました。当館がクラウドファンディングを始めたのは平成24年からですが、当時クラウドファンディングはさほど知られておらず、当館のスタッフもほぼ全員が初耳でした。そんな真新しい分野だったクラウドファンディングを、当館が毎年実行するようになってから5年が経ちましたが、その間に多くの

人々、多くの団体がクラウドファンディングに取り組み、ニュースに取り上げられるプロジェクトもあり、社会的にも少しずつ身近な存在になってきたことを実感しています。おかげ様で当館は、これまで全てのプロジェクトを無事達成できております。皆様への感謝を胸に、今年の第6弾も無事目標を達成できるよう、スタッフ一同頑張りたいと思います。



●利用案内 ●  
開館時間  
平日午前10時～午後5時  
休館日  
土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期・夏期特別整理期間  
※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します。  
入館料 無料 館内閲覧のみ  
●交通案内 ●  
東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分  
東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

編集・発行 公益財団法人 松竹大谷図書館

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア3階 / Tel. 03-5550-1694

公式 HP ● <http://www.shochiku.co.jp/shochiku-otani-toshokan/>

公式 Facebook ● <https://www.facebook.com/Shochikuotanitoshokan/>